

棚橋詢子 （おほし） 女子教育家。天保十年（二月）二十四日大坂生れ、昭和十四年九月（二十一日）歿（八元―九元）。舊姓牛尾田、本名詢、字文遠。號梅巷、梅香。また梅巷詢、棚橋あや子、蝶巷女史詢とも署名。十九歳の打傭者棚橋松郎（とら）と歸せ、夫と共に私塾自進館を開く。明治五年名古屋の十番小學校教員、のち桃夭女學校首尾訓導。八年上京して東京女學校の校長待遇となり、次（ついで）伊澤修一の紹介で東京女子師範學校を創へ、十一年學習院訓導主任に任じ、十九年芝山内（い）金聲小學校を創設した。爾後女子成仁學舎、名古屋第一高等女學校、愛敬女學校、東京高等女學校の校長を歴任。

著書に『女子女の教養』（明治四十一年四月）二十日博文館『家庭百科全書』、『評釋女大學』（大正二年七月一日實業之日本社。のちの昭和十三年二月）二十日婦女界社版には「隨感錄」附載）、『女らしさ』（再版・大正十三年七月十日忠誠堂）、『梅巷存稿』（昭和十四年十月十七日ソノト社）等の他、水野南北著『修身實驗録―名出世の道』（明治二十六年一月十日川合清九刊）を編輯出版。また、中村武羅夫著『傳記棚橋詢子』（昭和十二年二月十五日婦女界社）がある。

